



森や自然を大切に思うみどりの誓いを心に刻む
江刈小学校緑の少年団 結団式

江刈小学校（越智秀樹校長、児童29人）の「緑の少年団」結団式は10月3日、森のこだま館森林体験学習棟で、児童および関係者ら55人が出席して行われました。

同校緑の少年団育成会の澤幹信会長が「学校林を中心に自然や環境について学習し、ふるさとを愛する心を育んでください」とあいさつ。続いて岩手県緑の少年団連盟副会長の鈴木重男町長から木戸場結夢さん（6年）に、装備物品として帽子とネックチーフが手渡されました。児童を代表して、高宮野々花さん（同）と大川原舞桜利さん（同）が力強くみどりの誓いを述べました。

最後に葛巻地区森林愛護少年団を代表して目黒羽音さん（小屋瀬小6年）が激励の言葉を贈りました。

江刈小学校の学校林は明治38年に設置され、子どもたちの貴重な森林体験学習の場として大きな役割を果たしてきました。近年では、学校林事業の一環として、春は「学校林育樹祭」秋には「学校林遠足」を行っているほか、学校林をテーマにした「天樹の森」を曲目として江刈太鼓に取り組むなど、幅広い活動を継続しています。



第14回「薪・牧・巻」トリプルまきフェスタ
 第16回くずまき高原森林(もり)の恵みフォーラム
森林の力や魅力を再認識

力を合わせて大小さまざまな大きさのまきを運び出す参加者の皆さん



町産業振興協議会（会長、鈴木重男町長）主催の第14回「薪・牧・巻」トリプルまきフェスタ、第16回くずまき高原森林の恵みフォーラムは10月3日、町内の小学生と保護者ら約160人が参加し、森のこだま館で行われました。

鈴木重男町長は「森林との触れ合いを通じて、町の持つ力や魅力の認識をさらに深める一日にしてください」とあいさつ。その後、参加者たちはくずまき高原こいの森に移動し、まき運びを体験。声を掛け、息を合わせながら次々とまきを運び出し、袋に詰め込んでいました。

また、葛巻小5年生の親子らが伐採を体験。1人1本伐採した後、まきにするため30センチの長さに切り揃えました。始めは、のこぎりの使い方に戸惑っていた子どもたちも、すぐに「こつ」をつかみ、懸命に作業に取り組んでいました。

近藤圭悟さん（葛巻小5年）は「大変だったけれど、みんなで伐採を体験できたので良かったです」と充実した顔をのぞかせ、向川原奏那さん（同）は「切り込みを入れて木の倒れる方向を決めていることが勉強になりました」と理解を深めたようでした。

くずまきクラフト市2020かなづき
感染症対策講じにぎやかに開催



くずまきクラフト市2020かなづき（同実行委員会主催、南館則江代表）は9月27日、役場前の「蔵」周辺で開催。くずまき型DMOまちなか検討部会の蔵エリア活用社会実験も併せて実施されました。

会場には21店舗が出店。約500人が訪れ、お気に入りの店の前で立ち止まり、出展者と会話をしながら、ゆっくりと買い物を楽しんでいました。

葛巻高校の「総合的な探求の時間」の取り組みの中で、イベントスタッフとして活動した千葉沙羅さん（1年）は「初めて参加し、自分が知らないことがたくさんありました。葛巻でおしゃれなお店の出店など、さまざまな活動をしていることを、まちの新しい魅力として、今後、SNSやホームページなどで発信していきたいです」と自分たちの取り組みの幅を広げるきっかけをつかんだようでした。

①多くの来場者でにぎやかなクラフト市会場
 ②感染症対策として来場者に「もしサポ岩手」の登録を徹底
 ③イベントスタッフの登録を受け付けを手伝う葛巻高生ら

①伐採体験をする児童
 ②まき運び体験の様子
 ③30センチの長さの切り揃える児童
 ④のこぎりの使い方
 ⑤このつを説明する鈴木町長